

第 138 回学術大会報告

平成 26 年 10 月 17 日（金）～18 日（土）、熱海のホテルニューさがみやで、第 138 回学術大会が開催されました。参加者は 90 名と活気ある大会となりました。

第 1 講演は、大阪大学大学院医学研究科皮膚・毛髪再生医学寄附講座の乾重樹先生により「男性型脱毛症と毛周期研究の諸相：基礎から臨床まで」という演題でご講演頂きました。

男性型脱毛と円形脱毛症の違いについて、実際の症例写真があり非常にわかりやすい内容でした。

男性型脱毛にいくつかキーワードがあり、特に興味を引いたのが「男性ホルモン・遺伝」でした。頭髪化粧品業界で従事していると男性親族の薄毛が気になっておりました。

薬事法上、化粧品と医薬部外品には制限があるのは周知の事実かと思えます。もし、自分自身が男性型脱毛に悩む年齢のとなった時は、迷わずに医療機関へ相談しようと思いました。その頃には化粧品、医薬部外品も「養毛・育毛」の研究が進んでいることを期待しています。



大阪大学 乾重樹先生

第 2 講演は、新美容出版株式会社月刊マルセルの細田清行先生により「薬剤と技法の“最近”の関係」という演題でご講演頂きました。

・美容室が「パーマ屋さん」から「カラー屋さん」に変化したこと。

- ・ヘアカラーをした髪にパーマをかけるには。
- ・美容師が好むキャッチフレーズは 4 文字まで。

これからの商品開発に役立つ情報が多かったと思えました。

その後の懇親会でも多くの方が出席されました。夜遅くまで熱海を満喫された方もいらっしゃるかと思います。皆様にとって有意義な学術大会であったならば幸いです。



新美容出版 細田清行先生

（文責：叶内）